

妙高一雨飾縦走

10月12日－14日

メンバー：S61 卒 Dr.吉筋

M3 三枝

M2 只左

1日目（燕温泉－妙高山－高谷池）

前日の10/11（金）夕方、三枝と只左は新宿から長野行き高速バスに乗り込み、長野からJR信越線で妙高高原駅へ向かい、タクシーで燕温泉に夜10時に到着。北地獄谷の舗装された道を40分ほど登り、11時前、赤倉温泉源泉の脇で既にテントを張っていた吉筋先生と合流した。



赤倉温泉源泉管理小屋。横に水場もある。

12日（土）、起床すると予報通り曇り空で、雨ガばらっていた。のんびり支度をして、8時過ぎに出発。北地獄谷を登って行く。ガスがかかっているが、時々上空に青空も覗く。紅葉がピークで、とにかく素晴らしい。（私はこんなに綺麗な紅葉は初めて見ました。ここから、しばらく北地獄谷の紅葉をお楽しみ下さい。）





やがて胸突き八丁と呼ばれる急坂となるが、紅葉が素晴らしくて景色を眺めながらゆっくり登っていると急坂も全く苦にならない。

程なく赤倉方面からの道との合流点である天狗平に到着。ここから尾根沿いの道となり、左手に妙高の外輪山を見ながら歩くが、この外輪山の山腹も紅葉が見事で、まるで錦のようだった。



光善寺池

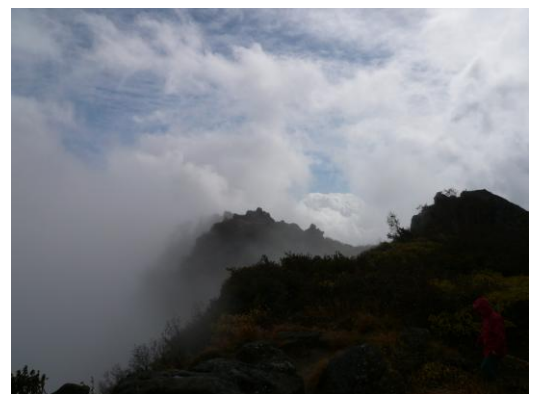


妙高外輪山の赤倉岳（2141m）

やがて森林限界を超えて岩場となり、13時、ようやく妙高山頂に到着した。



山頂でも時々青空がのぞき、もしかしたら晴れるのでは、と期待させられるのだが、晴れ間はすぐに雲に覆われてしまう。



時々晴れ間がのぞく（妙高山頂）

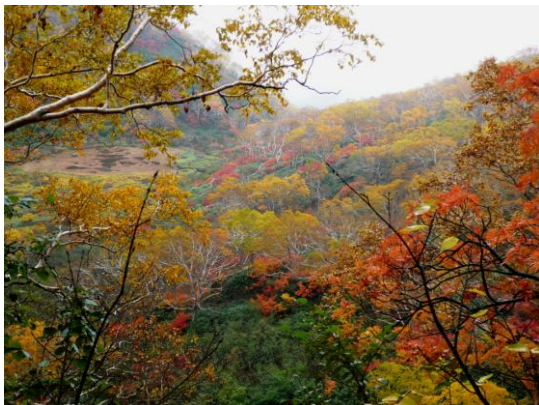


連休で人の多い妙高山頂

山頂で 30 分ほどゆっくりしてから出発。すっかり葉の落ちてしまった岳樺の樹林帯を下る。



1 時間ほど下ると、再び紅葉の樹林帯の中に飛び込んだ。長助池周辺の紅葉は素晴らしく、何度も立ち止まってしまった。



長助池周辺の紅葉

道は大倉乗越で外輪山を越え、少し下ると、ウイリスの頭のような奇妙な形の黒沢池ヒュッテに到着。この黒沢池周辺も素晴らしい景色だった。

ヒュッテの小屋の前には人が並び受付を待っているようだったが、見ていると次から次へと団体が到着する。すれ違った人に話を聞いたら、この日は定員 100 人のヒュッテの予約は何と 400 人！1 時間離れた高谷池ヒュッテは公営で完全予約制のため（定員 80 人）、高谷池ヒュッテに申込み損ねた人たちはいくらかでも詰め込んでくれる民間の黒沢池ヒュッテに押し掛けるそうだ。それにしても 100 人分のスペースに、400 人もどうやって寝るのだろう・・・？



面白い形の黒沢池ヒュッテ



黒沢池のテン場もテントが多かったが…



高谷池のテン場はこの通り



黒沢池周辺

黒沢池からはぬかるんだ道を 1 時間歩き、夕方 5 時過ぎ、ようやく目的地にの高谷池に到着。テン場を見るとテントがぎっしりで、スペースはまだあるのかと不安になりながら受付をするためにヒュッテに入った。テント 30 張のスペースに、すでに 31 張ってあるとのことだったが、何とか私たちのスペースを見つけて、泥泥の場所にテントを張った。



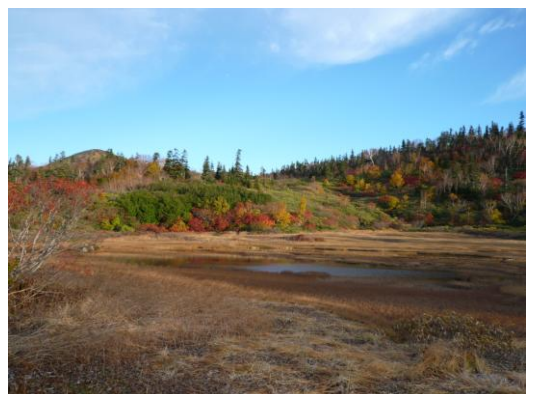
ようやく高谷池に到着

2 日目（高谷池－火打山－焼山－富士見峠）

夜中に雪が少し降ったようで、朝起きると地面もテントも凍りついていて。支度をして 7 時過ぎに出発。晴れてはいるものの雲が多くてなかなか陽が当たらず、高谷池周囲の紅葉はきれいなのだが映えないのが残念だった。



前夜は泥泥だったテン場の地面は凍りついていて



高谷池。左後方は火打山。（テン場から）



高谷池を振り返る。左後方は妙高山。



天狗の庭と火打山

湿原保護のためしばらく木道が続くが、表面がつるつるに凍っていて歩きにくいことこの上ない。この日、水が得られないかもしれないと水をたくさんかついでいた心配性の私は、2人から遅れ、しかも何度もバランスを崩して転んでしまった。左手には、穂高から白馬まで北アルプスが連なっている。

正面に火打山を望みながら進み、やがて「天狗の庭」と呼ばれる湿原にでた。これがまた景色の素晴らしいところで、吉筋先生も私も写真を撮るのに夢中になってしまった。



天狗の庭の池に映った「逆さ火打」



北アルプス。中央やや左に槍ヶ岳。左端は鹿島槍。



この山域最高峰の火打山（2462m）



表面が凍ってつるつるの木道に行く

天狗の庭から稜線に上がると、右手には見事に紅葉した北面の斜面が広がり、左手には近くの高妻山、北アルプスから遠くは富士山まで大展望が広がり、また振り返ると天狗の庭、妙高山、そして遠くは苗場山や浅間山まで望まれ、とにかく素晴らしい景色に足が止まりなかなか前に進まない。



見事に紅葉した稜線の北面と霧氷



高妻山（左）と北アルプス



富士山（中央やや左）と八ヶ岳



高谷池、妙高山を振り返る

昨夜の低気圧のおかげか、北面の樹木は霧氷をまとい、紅葉だけでも魅力的な景色をさらに美しいものにしていた。紅葉に大展望、そして霧氷。景色を存分に楽しみながらとろとろ歩き、大勢の人に抜かれて、1時間半のコースタイムを2時間半以上もかかって、ようやく火打山山頂に到着。



霧氷



霧氷をまとった樹林越しの火打山



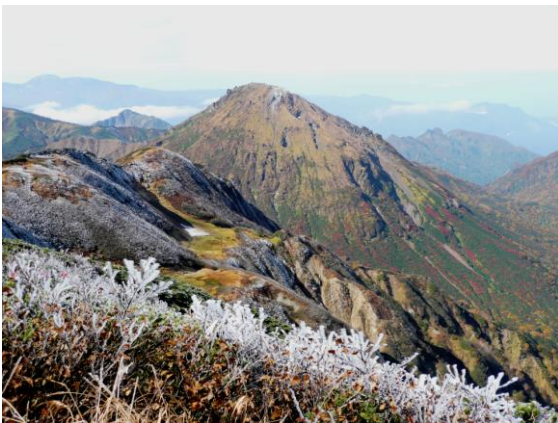
歩いてきた稜線を振り返る。北面の霧氷が見事。



ようやく火打山頂に到着

山頂からは大展望が広がり、特にこれから向かう焼山の眺めが見事だった。焼山北面の溶岩台地が紅葉で錦の絨毯を敷いたようだった。ゆっくり景色を眺めたいところだったが、やはり百名山なので人が多く、また風が冷たいので、休まずに進み、人のいないところでゆっくり休むことにした。

焼山、そして穂高から白馬と南北に大きく連なる北アルプスを正面に望み、どこまでも紅葉に染まる稜線の南北の斜面を左右に見ながら、焼山へと向かうが、火打山までの道と比べて急に細くなり、歩きにくくなった。



焼山の立派な山容



紅葉に染まる焼山北面の溶岩台地



北アルプス全山。手前やや右は、目的地の金山。



振り返ると、妙高のはるか遠くに志賀、浅間、秩父、富士山、八ヶ岳・・・



北面の稜線近くは、紅葉の上に霧氷が



南も、どこまでも紅葉。左は黒姫山、そのすぐ後ろは飯綱山、右は高妻山。遠くに八ヶ岳と富士山。



焼山が少しずつ近づく



山頂近くからは噴煙が上がる



焼山の南斜面と金山



きつい急登が続く



南の谷もこの通り、見事な紅葉



山頂が近付くと、荒涼とした景色に

火打山（2462m）と焼岳（2400m）はほとんど標高は変わらないが、いちど 2000m の峠（洞抜切戸）まで下らなければならない。火打山から先、焼山方面は焼山の噴火のため数年前まで登山禁止だったため道は整備されておらず、切戸直前の急斜面は滑りやすくてかなり歩き辛かった。

切戸から先は紅葉の中を歩く。そして、焼山山頂への急登となるが、直登で辛い。山頂近くから、噴煙が上がっている。やがて植物が少なくなって荒涼とした景色となり、山頂の火口の縁に出た。



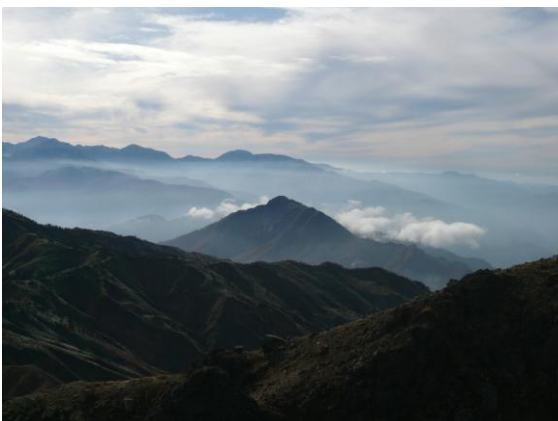
火口の縁を歩く。中央が山頂。



焼山山頂



手前の山は、この日の目的地、金山。右は雨飾山、遠くは北アルプス。この金山の景色に、なぜか懐かしさのような気持ちを感じるのだが・・・



雨飾山（中央）は 1963m と 2000m にも満たないが、

立派な山容をしている。深田久弥が百名山に選んだのもよくわかる。



火打山と妙高山を振り返る

山頂で少し休憩し、景色を楽しんだら出発。計画の金山まで行くのは時間的に無理なので、富士見峠まで行くことにした。白馬岳と雨飾山を正面に見ながら焼山の急斜面を下るが、マークがしっかりとつけてあり、危険なところも全くなかったのは少し拍子抜けだった。

ずっと紅葉はきれいだったが、焼山の北側の紅葉は格別だった。順調に進み、富士見峠に着くと、意外なことに既にテントが2つ張られていた。先客に挨拶をして、私たちもテントを張った。吉筋先生が水場を見つけて下さったが、水が旨かった。





焼山の北に連なる山の紅葉は特に見事だった



背丈を越す笹藪はきれいに刈り払われていた



富士見峠のテントサイトからの眺め。南の方角は開けていて、気持ちのよいところだった。右は高妻山と戸隠、左は黒姫山。



妙高山

3日目（富士見峠—金山—雨飾山—雨飾温泉）

この日は長い行程なので、暗いうちに出発した。出発直前に入った情報通り、富士見峠から金山の間は笹がきれいに刈り払われていて歩きやすかった。途中で日の出を迎えたが、素晴らしい景色にまたまた歩みが遅くなってしまった。それでも金山までわずか1時間半ほどで着いてしまった。頂上は狭かったが、小人数用のテントなら1つ張れそうだった。



妙高山から陽が昇る。左は火打山。



富士見峠のテントサイト





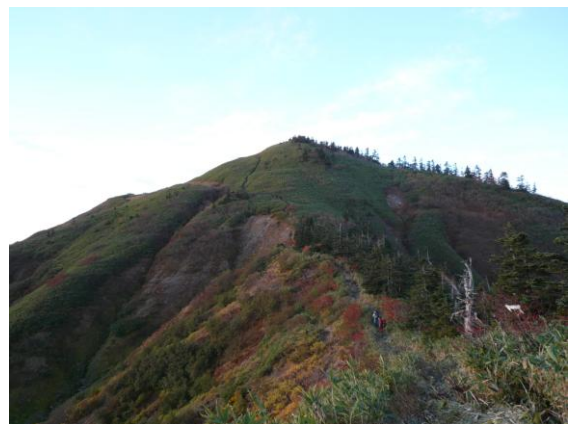
火打山（右）と焼山（左）



黒姫山



焼山と火打山



金山山頂を目指す



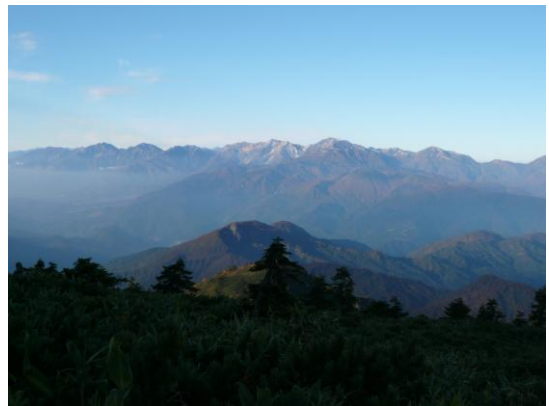
金山山頂に到着



雨飾山と北アルプス



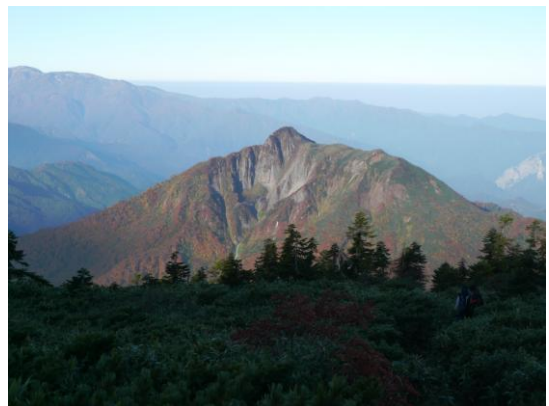
金山山頂から南の方角を望む。左は黒姫山。



北アルプス北部（白馬岳周辺）

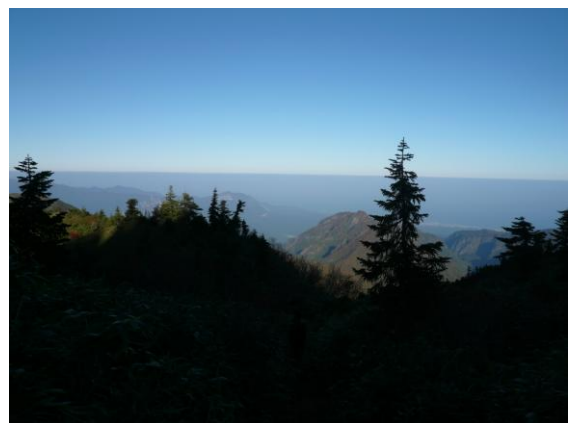


北アルプス南部（右に槍ヶ岳が見える。山頂から。）



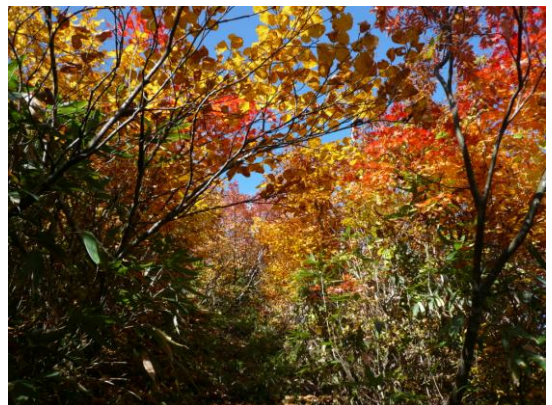
雨飾山

金山山頂で休憩をとり、西ヘシゲクラ尾根を下る。笹の中の道を少し下ると、北アルプス、雨飾山の眺めの素晴らしいところがあった。やがて、右手に日本海の水平線がみえるようになった。



右手には日本海が

金山山頂（2245m）から標高差で約 700m 下ってシゲクラ尾根の最底部に達し、そこからは雨飾山（1963m）に向けて 400m 登り返さなければならない。道は見通しの良い笹原になったり、低木の樹林帯になったりだったが、シゲクラ尾根の周辺も紅葉が見事だった。ところどころかなり急な下りで滑りやすいところがあった。次第に日差しが強くなり、歩いていると汗をかくようになってきた。少しずつ着ているものを脱ぎ、ついには T シャツ姿になったが、それでも暑いほどだった。



紅葉のトンネルを進む

金山から 3 時間かかって、雨飾山から北方へ続く稜線との分岐点、大曲に到着。テントが 1 つ張れそうなスペースがあった。すぐわきに水場もあった。ここからは稜線を雨飾山山頂に向かって急登になる。



大曲



大曲から北へ続く稜線もこの通り、見事な紅葉



雲が多くなってきた（金山、焼山方面）

登るにつれ、次第に雲が多くなる。振り返ると北の方の紅葉が特にすばらしかった。この日は出発してから全く人に会わなかったが、大曲から1時間ほど登ったところで、上の方から人の声が聞こえたと思ったら、小谷温泉からの登山道との合流点、笹平に飛び出した。ある程度予想はしていたものの、人の多さに少し閉口してしまった（自分たちも人の数をさらに3増やしたのだから、文句を言うのは筋違いなのだが…）。それにしても、改めて百名山の人気ぶりがよくわかった。

笹平を少し進み、私たちが下る雨飾温泉への道との分岐点に荷物をすべて置いてからみで山頂を往復することにした。

荷物を下ろしてすっかり身が軽くなり、最後の急登りも快適だった。笹平から約30分で混雑の山頂に到着。上空はすっかり雲に覆われてしまった。



小谷温泉からの登山道と合流。この通り、人が多かった。



雨飾温泉方面への道との分岐点に荷物を置き、空身で雨飾山頂を目指す



雨飾山山頂。この通り、たくさんの人で混雑。

雨飾山頂で記念撮影をして、少し景色を楽しんだら、荷物を置いてある笹平の分岐点へと引き返した。

分岐点からは急な下り坂となる。初めのうちは樹木の葉がすっかり落ちてしまっていたが、モリアオガエルの棲むという中の池あたりから再びきれいな紅葉となった。下るにつれてダケカンバが多くなり、やがてブナが多くなる。

分岐から2時間ほど下ったところで、それまで追い抜いたり追い越されたりして私たちと前後して歩い

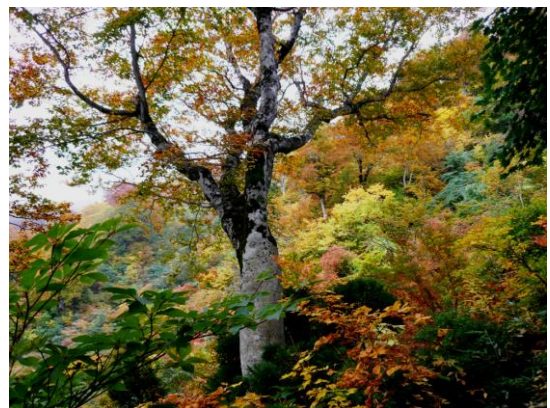
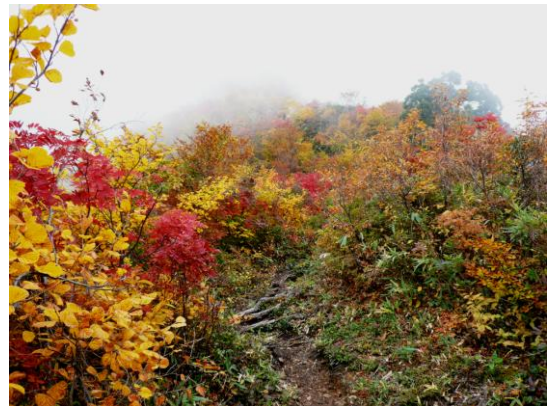
ていた、新潟から来たという中高年の5、6人のグループが、前方で道から外れて藪の中で何かしている。近づく、みなさん山ブドウを夢中になって採っていた。小さい頃木登りが得意だった私も、童心に帰って樹に登り、夢中になって山ブドウの実を袋いっぱい集めた。

さらに40分ほど下り、ゴールの雨飾温泉に到着。温泉で3日間の汗を流した。

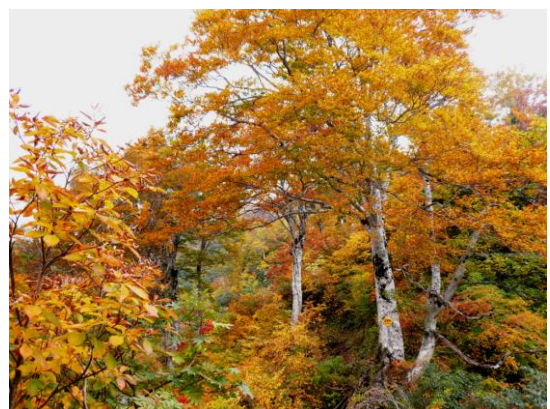
温泉からはタクシーで糸魚川駅に移動、吉筋先生と三枝は翌日の予定のために混雑した特急と新幹線で帰京、私は夜行の急行「能登」で帰京した。



ダケカンバ



ブナ



ブナの黄葉



笹平の笹原



中の池



面白い形をしたブナの木



山ブドウ



雨飾山荘に到着。3日間の縦走が終わった。

